

崇徳会研究・研修センター便り第3号「研究への一步」

(2025/3/26)

田宮病院 こころのリハビリセンター 佐藤寛幸

今まで私は「研究発表なんて無理」と思いながら日々の業務を行っていました。しかし、田宮病院の精神療養病棟やデイケアを担当する中で、上長の後押しもあり、院内研究発表大会、崇徳厚生事業団学会、新潟精神医学会、新潟県作業療法士学会と複数の発表の機会をいただきました。今では、上長や多職種の方々に感謝の思いでいっぱいです。

そうした経験を経て、現在は作業療法で実践してきたことを多職種と共有したいと考えようになり、会報誌の報告事例、研究報告を患者支援にどう活かせるかを意識しながら業務を行うようになりました。また、会報誌に目を通す機会も増えてきました。

前置きが長くなりましたが、これまでの実践報告の経験を踏まえ、研究に取り組む際のヒントをお伝えします。

研究へのヒント

1. 会報誌に目を通す

どのような事例があるのか、類似した事例があるかを確認する。

2. 会報誌の事例や報告を参考にし、検証してみる

先行事例をもとに、自施設の環境に合わせた検証を行う。

3. 現象や面接内容、様子などを数字化する工夫をする。

例：症状管理の対処について、できたか？上手くいったか？よかったか？を何割程度かを聴取し、頓服薬の使用や対処の方法、頻度などを比較してみる。

4. 標準化された評価用紙を活用する

標準化された用紙を活用することで、他の研究事例と比較検討しやすくなる。

(期間を決めて、初回と最終評価を実施すると比較的楽に評価できます。)

5. 新しいプログラム、アプローチを事例として振り返る

目的や計画が明確なプログラムについて、事例を通して振り返りを行う。

6. 統計解析（検定）を行い、研究の信頼性を高める

データを適切に分析し、客観的な結果を示すことで、より信頼性の高い報告になる。

今後は、担当病棟の多職種と協力し、退院後訪問看護の介入や再入院予防、地域定着に関する事例や、小集団での外出を利用した退院支援プログラムの実践報告を考えています。

研究活動や学会発表への一步となる、行動を起こすきっかけになればと考えています。

